

「第4回鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会」  
プレゼンテーション

【各委員の所感】

- ・日 時：令和5年7月24日（月）13:30～17:10
- ・場 所：鹿児島港本港区北ふ頭旅客ターミナル2階

（大西委員）

全体的に聞いてまして、ちょっと近いようで遠い本港区という話がありましたけれども、もちろん船が出入りする産業地域なので、岸壁付近は結局、入るのも出るのもバーで区切れている部分ですよ。ですからなかなか入って来れない。この岸壁で、あまり釣りをする方もいらっしゃいませんが。

新港区の方も新しくなりましたが、コンテナで全部見えないようにしましょうと。中を見えないように安全を確保する意味でですね、そういう形になって、なかなか市民の方々には、港というのは、近くて遠い場所になるんでしょうけども。

あと気づいたのが、本港区は、昔、奄美沖縄航路も本港区がメインだったときに、一応船が本港区に着きまして、そこから放射線状に各離島の方、いろいろな方が易居町の方に行ったり、城山の方に行ったり、放射線状にいろいろ行商の方とかがいらっしゃって、今の道ができたんだと私の記憶が正しければそうだと思います。ですからそこをやはり港の奥まで来る必要はないと思う。ドルフィンポート跡地、ウォーターフロントパーク、あの辺をみんなが居心地が良いスペースにするというのが一番、優先順位的にはそうなのかなと私は思いました。以上です。

（太田委員）

一昨日から参加させて頂いて、皆様のポスター内容を2巡ぐらい拝見したりプレゼンをお聞きしたりいたしました。また本日、こうしたプレゼンテーションをお聞きする機会を頂きまして、有難うございました。

どの案がというよりは、どの案からもいいところ取りが出来るといいなと思いました。

また、こうした計画では、大きな時間軸の段階があります。こうしたい、こうありたい、といったアイデア出しの段階から、計画的な基本構想の構築、実

現性のある実施計画段階等の時間軸があります。こうしたエリア開発を通じて、観光・コンベンション等の交流機能、スポーツ・レクリエーション機能などを集約することで賑わいのある多様な交流エリアを目標としていると理解しています。

今回の貴重なアイデアや提案が青写真を作るような構想段階なのか、それとも、実施段階の話なのか、各案で混在しているようでした。提案を頂いた方々の職業、個人・団体など様々な立場を踏まえての多様なアイデアなので当然だと思います。今更ですが、もっと早い時から色々ご提案をいただいて、全体のバランスを考慮しながら「いいとこ取り」が出来るともっといいと思います。この段階では、困難なことも多いと思いますが、個別の設備や建築のハード面のいいとこどり、コンセプト等のソフト面のいいとこ取りは出来る範囲でやれるといいな、と思います。感覚としてはいいとこどり（取り入れることが出来る限り）が出来ればいいなという感想です。以上です。

（松山委員）

今回のプレゼンテーションで、北ふ頭に関して各面からいろいろその価値のある話をたくさん伺いました。今回のプレゼンテーションでもありましたように、まずやっぱり人流物流に伴う港湾機能の確保ということが大事だということもよく教えていただきました。そういった中で、こういう、港湾機能を確保しながら、この本港区エリアには、エンターテイメント空間、憩いの空間、交流空間なども一方では求められているというふうに感じております。鹿児島市といたしましても、本港区エリアは観光交流機能やスポーツ・娯楽レクリエーション機能などの集約による賑わい溢れる交流拠点の形成を図るところでは、鹿児島市の今後のまちづくりの方向性と一致してるんじゃないかなと思います。今後、どこにどのような機能を持たせるかなど、具体的な論議は今後の利活用検討委員会で議論されると思いますが、港湾機能の確保をしながら、交流拠点となるようなエリアにできればいいと考えております。以上です。

（森委員）

はい森でございます。今日はありがとうございました。私は、幹事会の方にも出させていただいておりますけど、今回プレゼンテーションの場を設けていただいて本当に感謝しておりますし、今日、発表いただいた方々、それ以外の皆

さんにも、ご協力いただいたことに、本当に感謝しています。特に、このプレゼンテーションでいえば7組の方だったのですが、今回のアイデアは事前にも当然ながら目を通して、今日この場に伺ったんですが、直接お話を伺うというのは私自身も希望していたことで、やっぱり熱量みたいなものもあるかなと思ってましたので、今日、それを肌で感じる事ができて良かったと思います。ありがとうございました。

こういったアイデアをどう検討に活かしていくのかというのは、これからの議論になっていくと思うのですが、やっぱり、この本港区は港であるということ、これは変わらないので、その中で、いかに有効的に、まさに活用していけるのかという基本的な部分は外しちゃいけないんだろうなと、これは大前提になると思うのですが、皆さんのお話を伺っていると、この日常と非日常というか、あるいは観光と言い換えてもいいかもしれないですけど、その部分をどうすみ分けを持っていくのか、あるいは一緒に考えていくのか、この辺りのところも整理をしていく必要があるのかなという気もしています。鹿児島らしさとか、離島であるとか、海の玄関口、今日もいろいろキーワードいただきましたけど、そういう部分をうまく活かしていきながら、ゾーニングを考えていくといいのかなと思いました。

皆さんのプレゼンテーションの中では、憩いであるとか、健康とかウェルネスとか、文化とか、エンターテインメント、賑わいというキーワードとしてあったかと思います。この辺りをどうゾーニングしていったらいいのか、これから議論していきたいと思います。それから、これまでもそもそも大前提であった、時間軸とか、この本港区以外の全体のまち作りの中でどう位置付けていくのかとか、そういったところも今後も考えていけないポイントかと思っています。どうもありがとうございました。

(有村委員)

旅客船協会の有村でございます。今日、いろいろと様々なプレゼン拝見させていただきまして、私も高松と長崎の方に視察にお邪魔して、ちょっとインタビュー受けたりして、賑わいゾーンと離島航路、いわゆる物流を中心とした離島航路というところは非常に共存が難しいなというイメージで持ってたんですが、様々ないろんな提案の中に、もしかしたら共存できそうだというようなそういう案も何件かありましたし、そういう観点でやっぱり県民の皆さんが本当に納得できるようなゾーニングを始め、そういう賑わいと物流、離島航路、

そしてクルーズ船と、なんか共存していけるような、良い方法がだんだんと何か少し見えてきたかなというふうに思いました。これから参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

(升本委員)

升本でございます。一番最後の議論が私には何か今日の私の所感の代わりだと思います。あえて今日、この時間が何のためにあったのかっていうのは、私達に本当に課せられた大きな宿題だと思います。

最終的にその実現可能な事業化をしていく中で、事業者さんを公募しなくちゃいけない。その手前にあるランドデザインを作るとというのが私達の委員会の大きな役割でしょうけど、もう一つ手前にあるビジョンですよ。30年、50年経って絶対経年劣化させてはいけないという道標のようなビジョンをどうやってもう一度強固のものを作っていくのかっていう、その過程で、今日の7件のいろんなご意見っていうのは生かしていかなきゃいけないと思うんですね。

民間から拾ってしまったっていうその事実だけが大事なじゃなくて、皆さんの声をどう生かしていくのかって非常に我々に課せられた使命だというふうに思いました。原点に戻るようなちゃぶ台返しの話も今日もありましたし、個々の施設のあり方っていうか各論めいたものもありましたし、いろんな深いところから浅いところまでいろんなものがありましたので、それをどう捌いていくのかというのは、繰り返しになりますけど大きな私達に課せられたミッションだというふうに思いました。以上です。

(有山委員)

有山です。本日は貴重な機会をいただきましてありがとうございます。この3日間の全体的な感想を述べさせていただきたいのですけれども、やはり、書面上ではわからない、それぞれの思いが伝わってきて、皆さん目指しているところは一緒だけれども、いろいろなアプローチがあるということを考えました。それから皆様共通して思ってたっしやるのは、景観はもちろんですけれども緑地ですとか、あるいは子供の遊び場、学び場っていうことについても、あるいは美術館というアイデアもありましたけれども、そういったものを求めているのだなということを印象深く思ったところです。それと私自身が多くの気づきの中で、この場所で開催したということが非常に良かったなど

思っているところで、実は3日前にちょうどここに来ましたときに、この喜界航路の船が着岸する状況だったんですけれども、ゆっくりゆっくり船が着岸して、その後に、人が乗り降りする状況は見えなかったんですが、商品が降ろされる様子などを見て、これが港の日常なんだなと感じました。こういった港の日常の様子を残したいと、実は私、正直申し上げて、港湾機能はどこかに移転せざるを得ないんじゃないだろうかと、土地を有効活用したりですとか、交通渋滞や安全性の問題もありますので、移転せざるを得ないと思っていたんですけれども、いやいやそうではなくて、やはりこれが港なんだと、この状況をいろんな方がここで見るができるような、そういう場所を残した方がいいなと思いました。そうしますと、当然安全面での配慮ですとか、交通の面でも、一時的に大量に人や物が行き交うような、そういう施設ですとか機能は、この北ふ頭には、ちょっとふさわしくないなと思ったところでした。非常に多くの気づきを与えていただきました。ありがとうございました。以上です。

(有馬委員)

商店街連盟の有馬です。僕初めての体験で木方先生を初めとして、このいろんな方々にたくさんのご意見をいただいて、とても嬉しく思いました。こういう機会って、多分、僕の一生の中で始めてで、いろいろな方が、いろいろご意見お持ちなんだなというと同時に、やっぱりこの本港区に対する熱量とか、そういう期待とか広く高いんだなというふうに思いました。総じてお聞きした意見を総合すると、多分、いわゆる憩いであるとか、癒やしであるとか、楽しみであるとか、そういうのが大きなテーマなんだろうなと思いつつながら、それぞれの方の意見の感想です。なので、今後検討せざるを得ないのは、こうやって皆さんが憩いとか楽しみとか癒しとか、そういうものを求めている以上、ここは何とかして実現させてもらった方がいいのかなというふうに感じました。以上です。

(木方委員)

ありがとうございました。私も3日間、いろんな方のお話を聞き、また今日もですね、非常に熱いプレゼンテーションですね、本当に今、先生方のお話を聞きながら、あの方の顔とかこの方のお話とかっていうのを思い出しながら、この3日間の議論が頭の中を巡っているような状態です。まだ、そういう意味で

はしっかりまとめきれてないんですけども、やはり、有馬さんがおっしゃった通り、この港の、鹿児島街と同時に、鹿児島の離島であるとか、各地の暮らしを支えている港の姿ってのは、やっぱり、鹿児島の港は私は誇りだと思っんですよ。

昨日も一昨日も、例えば船が何隻も入っていて、そこに働いている方々もいて、それを見ながらやっぱり憩うとか、楽しむとか、学ぶとか、健康を考えると、それがやっぱり共存することこそ、鹿児島らしさなんだろうと私は思っんですね。それはもう今既に港湾機能が無くなってしまっている町を再生してですね、観光地にする話と違うと思っんです。なので、やっぱりそこら辺はですね、一般的に見栄えが悪いのかどうなのかとかいう、ステレオタイプの理解ではなくて、やっぱり鹿児島の港はこうなんだって自信を持っんですね、まちづくりをしていくことのがとても大事じゃないかなというふうに感じました。多分そういうことも含めて皆さんとお話できたっんですね、今回3日間、本当にある意味では、私自身はいい勉強になったなというありがたいと思っっております。以上です。

(津曲委員)

まず、234件の市民県民の方々の本港区にかける思いというのを、15センチぐらいだったと思っんですけども、1枚1枚見る機会に恵まれまして、大変ありがたかったなと思っんです。

そのうちに、もっと聞きたいと、もっと詳しく知りたいというものが結果的に本日の7作品になったんだと思っっておりますし、それ以外にもですね、日曜日は行けなかったっんですけども、土曜日に参りまして、ポスターセッションで、もう少し詳しく見たいなというところも見させていただいて、ご意見もいただいたり思いを聞いたりして、大変楽しかったです。

本日の7作品は本当にもっと詳しく知りたいという方々の話でしたんで、非常に詳しいところまで話を聞いて、大変勉強になりました。ただ、この7作品がこの234件の中から最も優れたものとして選ばれたわけでもないですし、また、7作品の中でどれが一番いいですかということを決めるものでもないというのは、認識を共有したいと思っっております。

ただ、大事なのはこの7作品だけではないですけども、234件の中で、この本港区にかける思いとかというもののの中で、やっぱり外してはいけない最も重要なものは何なんだろうなということをお我々が1枚1枚見る中で感じたこ

とを、この検討委員会できちっと反映をしてですね、より良い本港区になるべく意見を集約していければいいと思っております。

ただ、時間軸的に言えば、今、スポーツ・コンベンションセンターの議論をしているところではあったわけですが、そもそもその前に、本港区のあり方どうなんでしょうかというところが、この検討委員会に進んだところのございます。とはいえ、体育館を作るってことはある意味決定をしているところでもありますから、それならば、本港区のあり方というものを踏まえた上で、体育館はどこに作ればいいのかって話でありますけど、体育館作ったから本港区は終わりなんてことは毛頭ないわけで、時間軸としてはですね、これからも本港区というのは30年とか50年とかという中で、鹿児島にとってどのような魅力的な場所であり続けるかっていう議論は絶対外せないところというふうに思っておりますし、今日もいろんな話を聞きまして、やはり住んでいる方々、あるいはここに頻繁に訪れたいと思ってる方々にとって、癒しだとか、憩いの場にしっかりなっているのかということの外せないというのは感じました。それから、港の機能というものもしっかりと担保した上で、再開発を進める道というものを、やはり考えていくべきだということも感じました。そして、現にここで生活をし、そして営みをされている方々についても、どのように整理をするかっていう話もあるかもしれませんが、しっかりとそういう方々が継続できていけるような、もし、継続しないとするならば、代替地としてどこがあるかというようなことは真剣に考えなければ、やはりここで事業をやってらっしゃる方々や施設を、全部をすっくと無くして何かを作るということでは決してないわけですから、そこについてはさらに慎重な議論をすべきだと思いました。

話を聞いて、そうだなと思ったところもあれば、さらに本当に難しいなと思うところもありまして、複雑ですけども、やはり進めていかなければ。この地が、アンタッチャブルになっていくっていうのはやっぱり最も良くないと思いますので、何かの形で進めていかないということは感じたところのございます。ちょっと長くなりました。ありがとうございました。

(北崎委員長)

最後になりました。7者の方、本当に今日のプレゼンテーションありがとうございました。シナリオでは先にお礼を言わなきゃいけなかったんですけど、ちょっと遅くなりましたけども、改めて感謝申し上げます。

私の方、委員の皆様からいろんな意見をいただきました。思いがかなり統一的なものっていうのは私も一緒です。それで私の方から2点ぐらいちょっとお話をさせていただきます。

1つは、ここはエリアの利活用なんですけど、そもそもやっぱり新しいものを作るとか、新しいゾーニングするということには、やっぱり、既存の施設をしっかりと利用してるかどうかちょっとチェックしておかないといけないのかなともありました。ずっと本港区は広いですけども、南の方はどうなってるのかという話は、昨日も意見がたくさん出ました。それは、やっぱりちょっと担当者の県の方ともちょっと十分意見交換しないといけないんですけれども、何かを作るとかいうものもありますけど、既存の施設でどれだけ本港区をよくできるのかという議論もやっぱり必要だと思います。その上で、これが必要だから、これを立てないといけない。それで、そういうときにはやっぱりきちっと検討委員会は、偉くも何ともありませんが、説明責任はやっぱり果たせるような委員会にはしたいなと思ってます。

もう一つちょっとお願いなんですけど、今日、北ふ頭についてかなり議論が出ました。そして、当然ウォーターフロントパークとそれからあとドルフィンポート跡地は、意見はずっと出てます。ただちょっと南の方に関してはちょっとあんまり皆さんの意見がちょっとまだ出てない、十分な議論が出てない、活発な議論が展開されてない。それから北ふ頭の問題についても、できればですね、やっぱり動線とか駐車場の問題とかいろいろありますので、できれば市も何か社会実験的なもので、どういうふうなものがどういうふうな人の流れや駐車場がどう必要かということを経とちょっと連携して、協力して何かをちょっとこういう方向性があるんじゃないかというぐらいは出してほしいなと思います。

なかなか行政的なものは、県と市がうまくいってないとは思ってませんが、もっとちょっと連携してもらえば、検討委員会としても、いろんな判断材料ができるということだと思います。

最後に、12月いっぱいぐらいが期限として取られてますけど、これから検討委員会もちょっとさらに進めてまいりたいと思いますけども、アイデアとかは、極力拾うようにしたいと思いますけれども、こちらはその具体的なゾーニングをするときには、やっぱりちゃんと説明責任を十分果たせるような形にしたいとは思っています。ただそのときに、時間軸、先ほど言いました優先度と、それから実現可能性、これはやっぱりいろんな人によってターゲット違い



ますけれども、極力エリアごとにやっぱりその全体の県民市民の意見が入れるような形にはしないといけないと思います。ただ、それが十分入るかというのは、これからのちょっと我々の力量に関わる事情になりますけれども、その辺はあのようなご容赦いただきたいと思います。

時間が来てますので、この辺で終わりたいと思いますが、今日まで3日間ご協力いただいた方々、また、遠くから集まっていた委員の皆様、誠にありがとうございました。